

新聞社説の見出しの日中対照研究：見出しの機能を中心に

単, 艾婷

<https://doi.org/10.15017/1784628>

出版情報：地球社会統合科学研究. 5, pp.33-40, 2016-09-30. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

新聞社説の見出しの日中対照研究

―見出しの機能を中心に―

タン アイ テイ
単 艾 婷

1. はじめに

新聞の見出しは、記事内容の最も的確かつ簡潔な要約であり、読者に本文を理解してもらう「鍵」となるものである。見出しの機能について、共同通信社の『記者ハンドブック―用字用語の正しい知識』（第6版, 1990）では、「読者を本文へ引きつけ、いざなう看板、案内標識であるとともに、記事の勘所を前もって知らせ、本文へ読み進めやすくする役目を果たす。簡潔な記事の極致でもある。記事の中の字句をそのまま使い、客観的なポイントだけを、主観を交えずに的確に抽出して伝える『客観見出し』が多用される」と述べられている。また熊田(1994:32)は見出しの機能について、1) 記事と記事を分ける働き、2) 本文の内容を要約・紹介する働き、3) 記事の重要性をおもにその大きさによって示す働き、4) 読者が記事を読む気になるように誘う働き、と指摘している。しかし、これらは一般記事の見出し機能について述べたものであり、主観性が強いと思われる社説の見出しの機能についての言及はされていない。また言語社会によって見出しが果たす役割が異なる可能性もあると予想される。そこで本稿では日本語と中国語の新聞社説を分析資料として、両言語における見出しの機能に着目し、その共通点と相違点を明らかにする。

2. 先行研究と本研究の立場

2.1 見出しの機能に関する先行研究

これまで日本語の新聞の見出しに関する研究は、主にメディア研究や文章論の観点から数多くなされてきた。メディア研究の観点からは、小林他(2003)、木村他(2005)、木村(2006)などが挙げられる。また文章論の観点からの研究は、日比野(1992)、宮崎(1998)、水内(2002)などがある。他に、文法論・情報圧縮の観点から森山(2009)、日本語教育の立場から水内(2000)、野口(2002)などが挙げられるが、本研究との関連では、見出しの機能についての先行研究は西原(1997)、後藤(1998)、李(2008)や王(2005)がある。西原(1997)は、

日英の新聞社説を資料として両言語の談話構造の一部を明らかにしようとした。見出しの内容を考慮に入れつつ全体を大きく「描写・解説的なもの」と「意見表明的なもの」に大別し、「意見表明」を「反語の主張」「行動の提案」「批判的な主張」に下位分類している。

後藤(1998)は論説文として社説と投書を用いて、見出し、反復表現や文章構造を分析し、両者の異同を明らかにした。後藤は見出しの機能を文の述部の形態的特徴から捉えた。見出しを完全文¹の形に想定した上で、述語部の表現形態を1) 疑問・反語、2) 命令・禁止、3) 要望・希望、4) 勧誘・意志、5) 見解・評価、6) 事実・報告の6種類に分類した。結果として、社説の見出しは、2) の命令・禁止や1) 疑問・反語など、読み手への働きかけが強いものが多く、6) 事実・報告など働きかけの弱いものは少ない。これは、社説が世論に働きかけることを目的とするものであるためであると結論づけた。

李(2008)は、見出しが文章構造の解明に大きな役割を果たすと述べ、見出しの機能を1)「主張表明」、2)「話題提示」、3)「その他」に分類し、文中における反復を分析した。また王(2005)は、書き手の表現意図という観点から社説の見出しを「行動要請型」「判断表明型」「話題提起型」²に分類している。論説文とは、相手を説得する目的を持つ文章で、実行してほしいことを見出しに表すということは、取り上げる話題の問題を解決するための行動要請を最初から読み手に訴えることになり、読み手に与えるインパクトが最も強いと主張している。

中国語の新聞見出しの機能についての先行研究として、丁(1991)は議論文を内容から、「中心論点式」、「話題式」、「説明式」に大別している。また尹(2001)は新聞に限らず、いくつかのジャンルのタイトル全般を「報道性标题(報道性タイトル)」と「称名性标题(称名性タイトル)」³に分類した。さらに董(2007)は、尹の分類に基づき、評論の見出しを「強報道性」、「やや強報道性」、「強称名性」、「やや強称名性」、「強報道性・強称名性」の5種類に分類し、「強報道性見出し」は直接的に中心の論点を、「やや強報道性見出し」は間接的に中心の論点を表明し、「称名性見出し」は強弱に関わらず「話題提示」

の働きを果たすと述べている。

2.2 先行研究問題点及び本稿の位置付け

日本語の新聞見出しの先行研究では、見出しの機能を「述部の表現形態」から分類し、「話題提示」、「意見・主張表明」、「行動要請」などの機能に分けるのが一般的である。しかし、中国語の見出しを述部の表現形態から分類するのは困難である。また中国語の先行研究では、社説の見出しについての研究は見られなかった。そこで、本稿は永野(1986:249)の「辞に関する分類語例表」⁴の中での「D 態度による分類」(客体的事象の叙述、主体的立場の陳述、読み手への働きかけ)と李(2008)を参考に、見出しの機能を① 話題提示(客体的事象の叙述)、② 意見表明(a. 主体的立場の陳述、b. 読み手への働きかけ)に分類し、日中両言語の新聞見出しの対照を行う。

3. 分析資料

本研究の分析データとして、日本語は『朝日新聞』『読売新聞』『西日本新聞』、中国語は『新京報』『北京青年報』『南方都市報』を対象とした。日本語社説は1日に2篇、中国語社説は1日に1篇の場合が殆どのため、日本語のデータを2015年4月1日から4月30日の1ヶ月、中国語のデータを2015年4月1日から5月31日の2ヶ月とした。内訳は表1に示す通りである。

表1 分析資料の内訳

社説	新聞名 ⁵	期間	篇数
日本語	朝日新聞	2015.4.1~4.30	58
	読売新聞		57
	西日本新聞		51
中国語	新京報	2015.4.1~5.31	61
	北京青年報		61
	南方都市報		71

4. 用例及び分析

2.2で提示した見出しの機能：① 話題提示(客体的事象の叙述)、② 意見表明(a. 主体的立場の陳述、b. 読み手への働きかけ)のそれぞれの例は4.1、4.2に示す通りである。

4.1 日本語の用例及び分析

① 話題提示(客体的事象の叙述)

- (1) 憲法と国会 「緊急事態」論の危うさ
(朝日2015/04/03-1⁶)
- (2) 原爆ドーム 100年に考える役割
(朝日2015/04/05-2)
- (3) 難民受け入れ 拡大こそ国際貢献の道
(朝日2015/04/07-1)
- (4) 与党安保協議 巨大法案で見失うこと
(朝日2015/04/16-2)
- (5) 陛下パラオ訪問 戦地に立つ「慰霊」への使命感
(読売2015/04/10-2)
- (6) 米キューバ会談 相違点を抱えた両首脳の手shake
(読売2015/04/14-1)
- (7) 尼崎脱線事故 共有したい10年前の教訓
(西日本2015/04/25-1)
- (8) 親の監督責任 最高裁が免除基準を示した
(読売2015/04/11-2)
- (9) ドローン侵入 官邸警備の盲点を突かれた
(読売2015/04/24-2)

例(1)~(7)の見出しは「名詞句」で、(8)(9)は「動詞の過去形(た)」を通して話題を提示している。これから社説本文で何について論じるのかをおおよそ予測することができる。

② 意見表明

a. 主体的立場の陳述

- (10) 酒安売り規制 消費者利益が第一だ
(朝日2015/04/20-1)
- (11) 安全保障法制 抜け道だらけの決着だ
(朝日2015/04/22-2)
- (12) 地中海の難民 救難と安定化が急務だ
(朝日2015/04/25-2)
- (13) 「政治とカネ」再発防止を徹底すべきだ
(西日本2015/04/12)
- (14) 全国学力テスト 本末転倒是改めるべきだ
(西日本2015/04/26)
- (15) 指定医の不正 患者は「数」ではない
(朝日2015/04/18-2)
- (16) マイナンバー 国民への説明が足りない
(西日本2015/04/09-2)
- (17) 安保与党協議 歯止めの論議まだ足りぬ
(西日本2015/04/22-2)
- (18) 政府と沖縄 捨て石にはしてはならぬ
(朝日2015/04/01-1)
- (19) 地方創生交付金 持続的な活性化を目指したい
(読売2015/04/05-2)

- 20) 日中韓観光会合 訪問客拡大へ協調を深めたい
(読売2015/04/14-2)

例(10)~(12)判断の「だ」、(13)(14)「すべきだ」、(15)~(17)否定判断の「ない・ぬ」、(18)義務表現の「~してはならぬ」や、(19)(20)希望表現の「~したい」など、いずれも「意見表明」の下位区分の「a.主体的立場の陳述」の例である。つまり「だ」で終わる名詞文、「すべきだ」「~しなければならない」の義務表現、「ぬ・ない」の否定形や「~たい」の希望表現などを用いて、社説の執筆者の判断、見解または評価を表している。

b. 読み手への働きかけ

- (21) パイロット不足 安全第一を徹底せよ
(朝日2015/04/08-1)
- (22) 大阪府・市議選 住民投票へ関心高めよ
(朝日2015/04/14-1)
- (23) JR山手線 安全を一から見直せ(朝日2015/04/16-1)
- (24) ネパール大地震 国際的な救援態勢を急げ
(西日本2015/04/28-1)
- (25) 温暖化対策 地球益に背を向けるな
(朝日2015/04/12-1)
- (26) 日銀異次元緩和 「物価2%」の達成を焦るな(読売2015/04/09-1)
- (27) 電力広域機関 自由化促す役割を
(朝日2015/04/02-2)
- (28) 過疎地の足 貨客混載で利便性向上を
(西日本2015/04/21-2)
- (29) JR事故10年 教訓を安全の礎に
(朝日2015/04/24-2)
- (30) 医療事故調査 教訓を現場で生かせる制度に
(読売2015/04/13-1)
- (31) AIIB 関与は十分だったのか(朝日2015/04/01-2)
- (32) 酒の安売り規制 消費者の利益を損なわないか
(読売2015/04/26-2)
- (33) 少子化対策大綱 男性の育児参加を促進しよう
(読売2015/04/06-2)
- (34) 中小企業春闘 官民で賃上げの動き広げよう
(読売2015/04/08-2)

(21)~(34)は「意見表明」の下位区分の「b.読み手への働きかけ」の例である。(21)~(26)は「せよ」、「するな」などの命令・禁止形で、(27)~(30)は助詞の「ヲ止め」や「ニ止め」⁷⁾の形で、また(31)(32)は反問で、(33)(34)は「~よう」の勧誘・意志表現などを用いて、読み手へ働きかけている。

4.2 中国語の用例及び分析

① 話題提示(客体的事象の叙述)

- (35) 再论聂树斌案:真相、正义以及历史
(南方都市报2015/05/03)
- (35') 聶樹斌⁸⁾ 案件的再論:真相、正義及び歴史(拙訳)⁹⁾

中国語の社説の見出しに、「話題提示」の例はほとんど見られなかった。(22)は「名詞句」を用いて話題提示をしている。

② 意見表明

a. 主体的立場の陳述

- (36) 进京大货车这个“霾凶”¹⁰⁾ 治治了
(新京報2015/04/02)
- (36') 北京行きの大型トラックという「スモッグ犯人」を退治せよ
- (37) 虐童案警示: ¹¹⁾ 应对收养人做心理评估
(新京報2015/04/05)
- (37') 兒童虐待事件的警告: 引取り人の心理評価をすべきだ
- (38) 公务员离职后的职业选择¹²⁾ 有规则约束
(南方都市报2015/04/27-2)
- (38') 公務員離職後の職業選択は制約があるべきだ
- (39) 讨论停车管理¹³⁾ 必须考虑交通治理大局
(南方都市报2015/05/23)
- (39') 駐車管理の議論は交通状況の全般を考慮しなければならない
- (40) “不合理低价”¹⁴⁾ 是旅游业乱象根源(新京報2015/05/03)
- (40') 「不合理な低価格」は観光業の乱れの根源だ
- (41) 远离腐败暴力, 殡葬才¹⁵⁾ 能“清明”(新京報2015/04/04)
- (41') 汚職暴力から離れてこそ、葬儀と埋葬は「清明」になれる

(36)~(41)は「意見表明」の下位区分の「a.主体的立場の陳述」の例である。助動詞の「该 gai」「应 ying」(すべきだ)、副詞の「必须 bixu」(必ず…しなければならない)、また判断を表す「是 shi」(だ) や可能を表す「能 neng」を用いて、社説の執筆者の判断や見解の意見を表現している。

b. 読み手への働きかけ

- (42) ¹⁶⁾ 把旅游变成一场“对赌”(北京青年報2015/05/03)
- (42') 旅行を「賭け合い」にするな
- (43) 让孩子免于家暴恐惧, ¹⁷⁾ 不要只靠学校
(新京報2015/04/06)
- (43') 子供を家庭内暴力から守るのに、学校だけに頼るな
- (44) “叔侄冤案”¹⁸⁾ 追责¹⁹⁾ “只听楼梯响”(新京報2015/04/14)
- (44') 「叔父甥冤罪事件」の責任の追及において、「ただ階段

が響く」ことをするな

- (45) 出租车市场化改革有什么难的 (新京報2015/05/14)
- (45) タクシーの市場化の改革に何か困難か。
- (46) 提网速降网费, 高校可以例外? (新京報2015/05/17)
- (46) インターネットのスピード上げ・料金下げについて、大学は例外にできる?
- (47) 城市里为何总有噬人的深井 (新京報2015/05/23)
- (47) 都市になぜいつも人間を飲む深い井戸があるのか
- (48) 互联网公司, 没有数据安全谈何商业模式? (南都報2015/05/29)
- (48) インターネット企業は、データのセキュリティがなくして商業モデルと言えるか?

例(42)~(48)は「意見表明」の下位区分の「b. 読み手への働きかけ」の例である。(42)~(44)は命令形の「別 bie」「不要

buyao)(するな)、(45)~(48)は反語を表す「有什么难的」「为何」「谈何」などを用いて、読み手への働きかけを示している。

5. 分析結果及び考察

5.1 分析結果

表2からまず社説の見出しとして、日中ともに「話題提示」はわずかで、「意見表明」は圧倒的に多いことが分かった。そのうち「意見表明」における全体の割合は、日本語は8割強で、中国語は9割強であった。次に「意見表明」の下位区分の「a. 主体的立場の陳述」について、日本語の社説の見出しはそれぞれ27.59%、40.35%、31.37%の割合を占めており、中国語では73.77%、52.46%、90.14%であった。中国語の社説の見出しでは「a. 主体的立場の陳

表2 新聞社説における見出し機能の分析結果

見出しの機能		日本語 (%)			中国語 (%)		
		朝日	読売	西日本	新京報	北青報	南都報
① 話題提示 客体的事象の叙述		7 (12.07)	6 (10.53)	5 (9.81)	0 (0)	3 (4.92)	1 (1.41)
② 意見表明	a. 主体的立場の陳述	16 (27.59)	23 (40.35)	16 (31.37)	45 (73.77)	32 (52.46)	64 (90.14)
	b. 読み手への働きかけ	35 (60.34)	28 (49.12)	30 (58.82)	16 (26.23)	26 (42.62)	6 (8.45)
合計 (%)		58 (100)	57 (100)	51 (100)	61 (100)	61 (100)	71 (100)

表3 日本語の新聞社説における見出しの機能表現

見出しの機能	表現形式	見出し例	
① 話題提示	名詞句	原爆ドーム 100年に考える役割 (朝日 2015/04/05-2)	
	た(過去)	ドローン侵入 官邸警備の盲点を突かれた (読売 2015/04/24-2)	
② 意見表明	a. 主体的立場の陳述	だ すべきだ	安全保障法制 抜け道だらけの決着だ (朝日 2015/04/22-2) 全国学力テスト 本末転倒は改めるべきだ (西日本 2015/04/26)
		ない・ぬ (否定判断)	指定医の不正 患者は「数」ではない (朝日 2015/04/18-2) 安保与党協議 歯止めの論議まだ足りぬ (西日本 2015/04/22-2)
		なければならぬ	政府と沖縄 捨て石にしてはならぬ (朝日 2015/04/01-1)
		たい	地方創生交付金 持続的な活性化を目指したい (読売 2015/04/05-2)
b. 読み手への働きかけ	命令・禁止形	農地の転用 分権を創生につなげよ (朝日 2015/04/02-1) JR 山手線 安全を一から見直せ (朝日 2015/04/16-1) 全国学力調査 趣旨を逸脱するな (朝日 2015/04/22-1)	
		「ヲ止め」 「ニ止め」	電力広域機関 自由化促す役割を (朝日 2015/04/02-2) JR 事故10年 教訓を安全の礎に (朝日 2015/04/24-2)
		反問形 意向形~よう	酒の安売り規制 消費者の利益を損なわないか (読売 2015/04/26-2) 少子化対策大綱 男性の育児参加を促進しよう (読売 2015/04/06-2)

述」の表現を多用する傾向が見られた。一方「意見表明」の下位区分の「b. 読み手への働きかけ」に関して、日本語の社説の見出しにおける割合はそれぞれ60.34%、49.12%、58.82%であり、中国語では26.23%、42.62%、8.45%であった。日本語の社説の見出しでは「b. 読み手への働きかけ」の表現が多かった。

5.2 考察

日中両言語の新聞社説では、どのような表現を用いて、見出しの機能（① 話題提示、② 意見表明：a. 主体的立場の陳述、b. 読み手への働きかけ）を表現しているのかをまとめた。その詳細は表3及び表4を参照されたい。

5.2.1 日本語の新聞社説における見出しの機能表現

日本語の新聞社説における見出しの機能表現として、まず①の「話題提示」は名詞句や動詞の過去形が用いられていた。次に②の「意見表明」の下位区分の「a. 主体的立場の陳述」は判断の「だ」、「すべきだ」、否定判断の「ない・ぬ」、義務表現の「なければならない」、希望表現の「たい」などが見られた。また「b. 読み手への働きかけ」には、命令形の「～せよ・するな」などの「命令・禁止」の表現、文末の「ヲ止め」「ニ止め」表現、反問表現や、「意向形～よう」の勧誘表現などがあった。日本語の新聞社説では、「命令・禁止形（～せよ・するな）」が多く見られた。例えば「農地の転用 分権を創生につなげよ」（朝日 2015/04/02-1）、「JR 山手線 安全を一から見直せ」（朝日 2015/04/16-1）、「全国学力調査 趣旨を逸脱するな」（朝日 2015/04/22-1）などがある。執

筆者は読み手へ働きかけることを通して、社説の主張を表現していると思われる。

5.2.2 中国語の新聞社説における見出しの機能表現

中国語の新聞社説における見出しの機能表現として、まず①の「話題提示」は名詞句が使用されていた。ただ今回の調査で「話題提示」の例は、ほぼなかった。次に②の「意見表明」の下位区分の「a. 主体的立場の陳述」は助動詞の「该 gai」「应 ying」（すべきだ）、副詞の「必须 bixu」（必ず…しなければならない）、判断を表す「是 shi」（だ）や可能を表す「能 neng」を用いて、社説の執筆者の判断や見解の意見を表現している。また「b. 読み手への働きかけ」には、命令表現や反問表現などがあった。中国語の新聞社説では、義務表現を表す助動詞や副詞「应、应该、应当、要、须、需、必、必须（すべきだ、なければならない）」を用いて、「見解・評価・判断」などの「主体的な立場の陳述」の表現を多用する傾向が見られた。例えば、进京大货车这个“霾凶”该治治了（新京報 2015/04/02）（北京行きの大型トラックという「スモッグ犯人」を退治すべきだ）、讨论停车管理必须考虑交通治理大局（南方都市报 2015/05/23）（駐車管理の議論は交通状況の全般を考慮しなければならない）などがある。

中国語では「主谓句（主述文）¹¹」と「动词谓语句（動詞述語文）」を多用する傾向がある。その中でも特に主述文は非常に多い。これについて、董（2007）は「主谓结构的篇名主谓谓语齐全，句子结构完整，便于对事件、人物做陈述，适合表达一个判断性命题，因而也易于对话

表4 中国語の新聞社説における見出しの機能表現

見出しの機能	表現形式 ¹⁰	見出し例	
① 話題提示	名詞句	再论聂树斌案：真相、正义以及历史 （南方都市报 2015/05/03） 聶樹斌案件的再論：真相、正義及び歴史	
② 意見表明	a. 主体的立場の陳述	应、应该、应当、要、须、需、必、必须（すべきだ、なければならない）	进京大货车这个“霾凶”该治治了 北京行きの大型トラックという「スモッグ犯人」を退治すべきだ （新京報 2015/04/02） 讨论停车管理必须考虑交通治理大局 駐車管理の議論は交通状況の全般を考慮しなければならない （南方都市报 2015/05/23）
		是（だ）	“不合理低价”是旅游业乱象根源 「不合理な低価格」は観光業の乱れの根源だ （新京報 2015/05/03）
	b. 読み手への働きかけ	能、会、可以（可能）	远离腐败暴力，殡葬才能“清明” 汚職暴力から離れてこそ、葬儀と埋葬は「清明」になれる （新京報 2015/04/04）
		命令形	别把旅游变成一场“对赌” 旅行を「賭け合い」にするな （北青報 2015/05/03）
	反問形	出租车市场化改革有什么难的 タクシーの市場化の改革に何か困難か （新京報 2015/05/14）	

篇内容作出全面地概括，增強篇名的報道性。(主述文の見出しは、主語と述語は揃えており、文の構造が完全であるため、事件や人物に対する見解・判断などに適合する。また文章全体もまとめやすく、見出しの報道性を増す。)と述べ、中国語では主述文が使いやすいと指摘している。中国語の新聞社説では、主体的立場の陳述を通して、執筆者や新聞社の主張を表現していると考えられる。

6. 終わりに

社説は時事問題に関する新聞社の意見表明欄であり、読み手を説得するという強い目的を持つ論説文である。この目的を果たすにあたって、社説そのものに加え、見出しも大きな役割を果たしているといえよう。今回の調査では次の3点が明らかとなった。

- (1)日中両言語ともに「話題提示」はわずかで、「意見表明」に関する表現が多い。これは社説というジャンルの特徴でもあると思われる。
- (2)「意見表明」の下位区分として、日本語の社説の見出しでは「～せよ・するな」などの「命令・禁止」の表現を多用し、読み手への働きかけが強い傾向が見られる。これは後藤(1998)で「社説は、新聞社の意見として、当事者をはじめ、広く一般読者に訴えかけることを目的としているので、見出しは、命令・禁止の表現を用いて、相手に行動を要求するような強い働きかけの機能を持つものが多い」とした指摘を支持する結果でもある。
- (3)中国語の社説の見出しでは「見解・評価・判断」(是だ・应该すべきだ)などの「主体的な立場の陳述」の表現を多用し、はっきりと自分の主張をする傾向が見られた。

今後分析データを増やし、他のジャンルも考慮に入れて、さらに分析をしていきたい。また、見出しの機能や反復表現と文章構造の関連性についての検討も今後の課題としたい。

を要請する。「判断表明型」とは「～はこうである」、書き手の価値判断を表明する。「話題提起型」とは「～について論じる」、論じる話題を取り上げる。

³ 報道性タイトルの例: Iphoneの新機種をリリース(作例)。称名性タイトルというのは、「無題」に対して「有題」のことである。例えば、京都の旅(作例)。

⁴ 永野(1986:249)は「辞に関する分類語例表」を掲げ、辞に関する分類を「A 辞の四分類」「B 機能の単複による分類」「C 志向による分類」「D 態度による分類」の4種類にしている。「A 辞の四分類」は「叙述辞(関係辞、統一辞)」、「述定辞」、「伝達辞」である。「B 機能の単複による分類」には以下の7種類が見られる。①関係辞のみの機能をもつもの、②関係辞と統一辞との両方の機能をもつもの、③統一辞のみの機能をもつもの、④統一辞と述定辞との両方の機能をもつもの、⑤述定辞のみの機能をもつもの、⑥述定辞と伝達辞との両方の機能をもつもの、⑦伝達辞のみの機能をもつもの。「C 志向による分類」は「話材志向」、「話材→自分志向」、「自分志向、自分→相手志向」であり、「D 態度による分類」には、「客体的事象の叙述」、「主体的立場陳述」、「読み手への働きかけ」がある。

⁵ 『朝日新聞』:朝日新聞社が編集・発行する新聞の一つであり、同社のメイン新聞である。詳しい解説が特徴である。『読売新聞』:日本最大の発行部数を誇る新聞である。記事は全体的にバランスのとれた内容で、国際情勢から社会面まで、あらゆるジャンルの情勢が均一に入手できる。『西日本新聞』:株式会社西日本新聞社が発行している日刊新聞である。福岡を中心にするブロック紙で、レイアウト、内容ともに五大紙に勝るとも劣らない内容である。社説による行政、経済の解説はなかなか読み応えがある。(戸田1998を参照)『新京報』中共北京市委宣伝部により発行し、北京で最もページ数が多く、情報量が多い全国総合日報。社説のある新聞の中で、購読と小売りを中心とし、一般市民に読まれている。『北京青年報』:北京青年報社により発行され、中国では人気の全国総合日刊紙である。『南方都市报』:中国最大のメディアグループである南方報業メディア集団傘下の総合日刊紙である。社説は毎日掲載され、社説のある新聞の中で、有名である。(Lee 風子・楊彩虹2013を参照)分析する際、『朝日』『読売』『西日本』『新京報』『北青報』『南都報』と略する。

⁶ 数字は日付を表し、(2015/04/03-1)は2015年4月3日、1篇目の社説を意味する。

⁷ 野口(2002)によると、助詞止め「～を・～を……

¹ 後藤(1998)では、文の叙述表現の形態的特徴から、見出しを以下の3種に分けた。Ⅰ、終止形述部:「日米協議」合意の道を探ろう(読売社説4/20)Ⅱ、体言止め述部:信頼で築きたい「人間性医療」(読売社説4/6)Ⅲ、述部の省略:新幹線の復旧には緊張感を(毎日社説4/6)そのうちⅠを「完全文」とし、ⅡⅢを「不完全文」とした。

² 「行動要請型」とは「～はこうせよ」、何らかの行動

に」は「～よう」勧誘、「～てほしい」要望、「～たい」希望、「～べきだ」当然・適当などの意味があるが、本稿では王（2005）を参考に、「～を・～を……に」を「～せよ」に統一し、「命令・禁止」に分類した。

⁸ 人の名前。

⁹ 本稿の中国語の社説見出しの日本語訳は全て拙訳になる。翻訳する際、できるだけ直訳を付けるように心がけた。

¹⁰ 中国語に述部など文末表現から事実を示すもの、見解判断を示すもの等の分類はできないため、主観的な態度を表す「助動詞」（中国語では「能願動詞」と呼ぶ）や「副詞」がつくか否かによって判定した。

¹¹ 述語が主述フレーズになっている文。日本語では「象は鼻が長い」のような文がこれに当たる。文全体の主語となっている主語を大主語、述部となっている主述フレーズの主語を小主語と呼ぶ。王（2004:159）

参考文献

- Lee 風子・楊彩虹（2013）「日本語・英語・中国語の新聞の社説に現れる Stance 表現と Engagement 表現—中国語の特徴を中心に—」『言語科学研究』3, pp.75-91.
- 李貞皎（2008）『韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究』ひつじ書房
- 伊集院郁子・高橋圭子（2012）「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文の構造的特徴—「主張」に着目して—」『日本語・日本学研究』2, pp.1-15.
- 板村英典（2006）「新聞における「見出し」の表現形式—見出しの荷重要素とその「内容分析」をめぐって—」『関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究』64, pp.21-49.
- 稲垣吉彦（1987）「見出しの言語表現」『入門マスコミ言語論』大修館書店
- 王世和（2005）「表現意図から見た社説の見出しの種類」『台湾日本語文学報』20, pp.215-239.
- 王占華（2004）『中国語学概論』駿河台出版社
- 熊田亘（1994）『新聞の読み方上達法』ほるぷ出版
- 後藤利枝（1998）「論説文の文章構造と見出しの反復」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』5, pp.37-48.
- 社団法人共同通信社（1990）『記者ハンドブッカー用字用語の正しい知識』（第6版）株式会社共同通信社
- 田中哲哉（1998）「新聞見出しの文法的特徴と機能」『龍谷大学国際センター研究年報』7, pp.67-78.
- 戸田覚（1998）『活用自在 日本の新聞データブック』こう書房
- 永野賢（1986）『文章論総説—文法論的考察』朝倉書店

西原鈴子（1997）「日英語新聞社説における談話構造」編集委員会編『日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念—』凡人社 pp.537-548.

野口崇子（2002）「「見出し」の“文法”—解説への手引きと諸問題—」『講座日本語教育』38, pp.94-124.

白飛・魏星・張継承（2008）「中国における新聞の商業化と都市報の果たす役割」『経済広報』12, pp.14-17.

馬場博治・植条則夫（1988）『マスコミ文章作法』創元社

日比野茂夫（1992）「新聞見出しの文章」『愛知女子短期大学研究紀要（人文編）』25, pp.31-38.

三樹精吉（1966）『新聞の編集と整理—価値判断・見出し・レイアウト—』現代ジャーナリズム出版会

三樹精吉（1988）「新聞の見出し」『日本語百科大辞典』大修館書店 pp.817-826.

水内純清（2000）「新聞の「見出し」による日本語教育」『東アジア日本語教育・日本文化研究』2, pp.393-399.

水内純清（2002）「統合論にみる新聞見出しの形態研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』5, pp.129-133.

宮崎彰男（1998）「日刊報道誌と週刊報道誌における見出しの構造ならびにその明確さと簡潔さ」『三重大学教育学部研究紀要』49, pp.121-135.

森山卓郎（2009）「新聞見出しの文法・序論」『日中言語研究と日本語教育』2, pp.13-20.

湯浅千映子（2014）「ネットのニュース記事における見出しの機能」『早稲田日本語研究』23, pp.13-23.

雷紫雯（2013）「東日本大震災をめぐる中国の新聞報道についての考察：グローバル時代における国際報道の可能性の視点から」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』16, pp.105-124.

丁允玲（1991）《议论文标题试析》《山东师范大学学报：人文社会科学版》4, pp.87-90.

董育宁（2007）《新闻评论语篇的语言研究》（復旦大学博士論文）

尹世超（2001）《标题语法》商务印书馆

A Comparative Study of Headlines in Japanese and Chinese Newspaper Editorials

— From the Perspective of the Function of Headlines —

Aiting SHAN

This paper is a comparative study of the function of headlines in Japanese and Chinese newspaper editorials. Referencing Nagano's(1986) "Categorizing Related Words, A Table of Example", I have divided the function of the headlines examined into two broad categories:(1) Presentation of topic (narrative description of events), (2) Statement of opinion (a. An active proclamation, b. An appeal to the reader). The research carried out has revealed that, regarding the headlines of editorials in both Japanese and Chinese, the overwhelming majority fitted into the category of "Statement of opinion". As a subsection of the "Statement of opinion" category, headlines in Japanese editorials make heavy use of "imperative-prohibitive" expressions, such as "do-do not", and in doing so appeal to the readership. This is a strong trend that is highly evident. On the other hand, the headings that appear in Chinese editorials frequently make use of "active proclamations", such as "opinions, evaluations and judgments". This is a trend that sees individuals clearly express their viewpoint.

Key word: Newspaper Editorials, Headlines, Function, Comparative Study